

令和5年度 第2回徳島県立小松島高等学校学校運営協議会 議事録

1 日時 令和5年 11月3日（金・祝）午前10時から11時10分

2 場所 小松島高等学校 大会議室

3 会次第

(1) 開会

資料の確認

(2) 学校長挨拶〔小松島高校 校長 板東 潤・学校運営協議会副会長〕

ご出席くださり感謝申し上げます。

本日の会では、生徒・学校・先生の様子を見ていただいたご感想をいただきたい。学校運営に反映させるために率直な感想をいただけたらと思います。

(3) 協議

① 各委員の方々より授業や生徒の様子を見ての感想等

(佐藤委員)

古い時代の授業では一斉授業が一般的だったが、今回の授業では一人一人の意見を拾いあげる工夫がなされていた。

(畠 会長)

柔軟な授業スタイルがよかった。今回の授業は実際に英語のネイティブスピーカーを前にした刺激的な授業内容だった。

(内山委員)

生徒の発言に対して他の生徒から拍手が起こる場面を見て雰囲気の良いことが伝わってきた。

(藤本委員)

指導要領の変更により聞いたことのない教科がたくさんあって驚いた。その変更に対応している現場の先生の苦勞に共感している。ベテランの先生は特に変化に対する対応に困難を感じているのではないかと思う。小松島中学校の参加者の中には、実施されている授業に高校生の1人であるかのように集中して授業を受けている生徒もいた。

(4) 令和5年度活動報告

① HPによる行事等の実施報告

(板東副会長)

本校では学びイベントの1つとして「学習マラソン」を行っている。「学習マラソン」では、定期考査の前に Classi というアプリを活用して各クラス・個人の学習時間を調査し、全生徒にその調査結果を公表した後、表彰も行っている。

また、「生徒授業」では、各地域の中学校に伺い、本校高校生が地元の中学生に授業を行っている。本日のオープンスクールにおいても、生物の授業で生徒が教師役になって授業をする場面があったように、普段の本校の授業でも生徒が主体となった取組が行われている。

次に、本校の「表彰披露」においては、表彰を受けた生徒が登壇した際、賞状を披露するとともにスピーチを行っている。

中学校体験入学は多くの中学生が参加してくれた。その際、吹奏楽部の演奏で中学生を迎え入れたり、体験授業においては、数学科は生徒授業、理科ではいりこの解剖など、それぞれ教科の特性を生かした生徒主体の授業を行ったりした。

非公開の前日祭では、クラスや有志による踊りや寸劇などのパフォーマンスが行われ、全校生徒が観覧し大いに盛り上がった。また一般公開された文化祭では、各クラス屋内外で展示や模擬店を出店したほか、校外からは自衛隊等も展示やキッチンカーの出店もあった。

体育祭については、パフォーマンスをはじめ、前年度より競技内容の変更があった。実施した競技の中には、たぬきのちくわ、小松島の渦潮など、本校独自の競技もあり大いに盛り上がった。

また、警察と連携しヘルメット着用の普及活動を行ったり、松原のボランティア活動も継続して行ったりしている。HP上に校則変更についても更新している。このように、HP上にアップデートされた本校の教育活動をまた機会があればご覧いただきたいと思う。

② 「世界と向き合う」キャリアガイダンスについて

地元企業の企業理念や様々な取組についての話を聞くことを通して、地域の課題について理解を深めるとともに、将来的に地元に貢献できる人材育成につながるような機会になればと思っている。

③ 一人一台端末の状況

(牧野教頭)

一人一台端末の接続の悪さについては、その都度県教委にも報告を行っている。

また、機器の膨張等の問題については、本校ではあまり発生しておらず、問題のある端末に対しては、予備の機器で対応できている。新聞では全体のおよそ17%の端末が膨張等のトラブルがあると報じられていたが、本校の問題端末の割合はそれより低いというのが現状である。

④ 校則の変更について

(安崎教頭)

校則については、第1回運営協議会においても協議会の方々とブラック校則等の世間の声も踏まえて話し合いをさせていただいているところである。

校則変更の経緯についてだが、本校ではまず生徒がクラス単位で校則について意見を出し合った。生徒主体の話し合いを促すことで生徒の率直な考えを拾い上げることができた。その後、各HR委員長が集まり委員長同士が意見交換し、生徒総会を通して学校全体でその意見を共有し、さらに生徒議会を通して再度その意見を精選させた。

また、PTAにも校則に関する考えを伺った上で、職員会議で最終的な決定をした。変更内容については、HP上にもあるように靴下の色、制服の規定、アルバイトに関してだ。生徒から挙がった意見の中には、化粧を許可してほしいというものもあったが、松高生としての身だしなみ、松高ブランドを高めるという目的にはそぐわないという学校の考えを生徒議会でも共通理解を図ることができた。これからも生徒が主体のよりよい学校にするために、校則の見直しについては継続して行っていきたいと思う。

(佐藤委員)

松高ブランドを尊重しつつ、社会情勢に柔軟に対応していこうとしている姿勢が見てとれ、皆さんのご苦労と努力に感動した。

(安崎教頭)

生徒から挙がった声が、実際生徒の学校生活の改善につながっている。自転車置き場の故障した時計が直ったのもその一例である。

(畠 会長)

表彰披露についての提言だが、部活などの実績が学校生活・学習にどのように良い影響を与えているのかを検証する機会があると面白いと思った。

松原の奉仕活動については、清掃以外の分野、例えば専門家を招いて現場に生えた草花などについて知識を深めるなどの教育活動を取り入れるのはどうか。

生徒授業については学校以外の場所、例えば寺院など様々な世代の方と交流できるような環境ですることもいいのではないかと思う。松高の学校目標を達成させる

ために様々な分野の専門家とつながりを持つと良いのではないか。今ではネットで誰とでも交流できるのでそのようなツールを用いるとさらに教育活動が深まるのではないか。

(5) 小松島高校の課題について

(板東副会長)

本校の生徒が社会に出て行った後に養うべき力について、本校の教育活動の改善点について意見を出していただけたらと思う。

(藤本委員)

体育祭の種目名からわかるように、小松島高校が地元を大切にしていることがよくわかった。中学校においても地元を大切にした教育活動を行っていくことが必要ではないかと感じた。

(内山委員)

市民の意見を聞く会合では、若者と上の世代の間で連携し活動を行っている。市の方では、大阪万博に向けての取り組みの1つとして、恩山寺や立江寺、ハモなどの活用を検討しており、大型クルーズ船の歓迎事業においては立江寺とコラボレーションしている。その活動に小松島高校の生徒のみなさんも参加してくれたらさらに盛り上がるのではないかと思った。

(佐藤委員)

大型クルーズ船は過去に小松島西高の生徒が出迎えと見送りを行った。地元への関心を高めるのに効果があった。

(内山委員)

大型クルーズ船は現在中国から来ることが多い。以前は欧州やアメリカから来る人が多かった。

(畠 会長)

東洋と西洋の異なる文化を立江寺で芸術を通して融合するようなイベントはどうか。一体感をそのイベントで感じることができるといいのでは。

(佐藤委員)

最近小松島発のアートグループが出てきている。それとコラボするのもいいのでは。

最近、教育指導要領にある生きる力についてリサーチすることがあった。人間性・健康・体力等についても述べられていることから、学力だけでなくその他の領域も教育活動を通して養うことが求められていることから、先生方のご苦勞がうかがえる。私の行うワークショップでは生きる力を伸ばすような方法で行いたいと思っている。

(6) 事務連絡

(牧野教頭)

第3回の協議会は3月の中旬に開催予定。開催日程は遅くとも1ヶ月前までにはご連絡しますのでよろしくお願いします。

本日は貴重なご意見ありがとうございました。お氣をつけてお帰りください。